

—概要—

診療情報管理係は、診療記録や診療情報の適正な運用支援ならびに適切な保管管理のもと情報活用を支援する部署である。

日頃より診療記録を整備し、有効かつ効果的に情報活用できる精度の高い記録を目指すとともに、職員教育や研究をサポートすることで、今後より良い医療を患者に提供できるように情報管理の側面からチーム医療を支援している。

また診療情報管理業務のほか、大阪府がん診療拠点病院としてがん登録を行うことで、国のがん対策や都道府県の地域医療計画にも寄与している。

—体制—

診療情報管理係は事務局医療マネジメント課に属しており、常勤の診療情報管理士5名を配置している。

※診療情報管理士とは、院内の診療情報を高い精度で機能させ、そこに含まれる情報をニーズに適した形で提供、活用することにより医療の安全管理や質の向上および病院の経営管理に寄与する職種である。

—主な業務—

診療記録の運用支援
診療記録の監査、改善
診療記録の保管管理
診療記録の電子化支援
傷病名コーディング
院内がん登録、全国がん登録
DPCデータの精度管理
DPC制度にかかる調査
診療情報の活用支援
教育、研究用データの作成
臨床評価指標の作成
DPC病院情報の公表資料作成
各種統計の作成
調査データの作成
関連システムの保守
クリニカルパスの分析および運用支援
院外研究、アンケートの協力
職員研修
診療情報管理委員会を含む11の委員会活動

—主な実績—

- 1 退院症例における診療記録点検
(退院症例数 8,499件)
- 2 院内がん登録、全国がん登録
2019年症例登録数：1,127件
- 3 傷病名マスタ管理：616件 更新
- 4 診療情報等のデータ提供支援：322件
- 5 診療録開示対応：147件
- 6 職員研修実施(情報セキュリティ、カルテ等)
- 7 診療情報管理委員会事務局活動(抜粋)
 - ・退院翌日から14日以内のサマリ記載率90%以上維持のための支援
 - ・診療記録の運用調整
 - ・診療記録様式の作成と改訂
 - ・保管記録の整理

—今年度の成果と反省点—

2020年度は、診療情報の活用推進及び職員に対する提供を継続して行った。また定期的にCOVID-19の蓄積情報を提供することで情報の面から貢献できるよう努めた。

このほか前年度から引き続きDPCコーディング監査やDPCにおける重症度医療・看護必要度の精度管理のサポートを行った。

多職種が集い行う診療録監査については、開催方法等改善の余地が残っていると考える。

—来年度への抱負—

診療情報管理部門としてDPC及び診療記録の精度管理と精度向上を目標とする。

また診療情報のスムーズな提供体制を維持して情報の面から貢献できるように努める。